

日本油化学会第55回年会 発表

題名；アルツハイマー型認知症罹患患者の中鎖脂肪酸摂取の影響

Effect of ingestion of medium-chain fatty acids in Alzheimer's Disease patients

氏名；○野坂直久¹⁾、加藤一彦²⁾、末満ひろみ²⁾、吉田歌子³⁾、渡邊慎二¹⁾、青山敏明⁴⁾

所属；¹⁾日清オイリオグループ株式会社、²⁾かとうクリニック、³⁾ぐるーぷ麦、

⁴⁾大東カカオ株式会社

The cognitive-test score (a) and the behavioral and psychological symptoms (b) of patients with Alzheimer's Disease improved as a result of ingesting 10 ~ 20 g of medium-chain fatty acids for (a) 3 months or (b) 2 years. No adverse event except for soft stool was linked to the ingestion.

1. 緒言

中鎖脂肪酸（MCF）摂取によりアルツハイマー型認知症（AD）者の ADAS-Cog 認知機能検査値の改善が海外で報告され（Nutr. Metab. 6, 31 (2009)）、国内疫学研究では短鎖脂肪酸や MCF 摂取増加が認知機能低下リスク低減を示唆する報告（栄食誌 68, 101 (2015)）があるが、本邦で MCF 摂取後の認知機能検査や長期摂取の影響を調べた研究はほとんど知られていない。そこで、短期的な影響を認知機能と観察評価から、長期的な影響を観察評価と血液性状から検討した症例を報告する。

2. 対象および方法

AD 罹患患者 4 名（若年性 3 名、高齢 1 名）を対象とした。MCF はゼリー状・パウダー状食品や精製ココナツ油で摂取させ、一日 10~20 g を継続させた。若年性 AD はタッチパネル式認知機能テスト(TDAS)を摂取開始前と 3 ヶ月後に実施し、日常観察も行った。高齢 AD では 2 年間の MCF 摂取に対する影響を日常観察から中核症状と周辺症状に分類し、血液性状への影響を評価した。MCF 摂取に関する罹患患者本人・家族への事前説明と文書による同意並びに発表承諾、施設長の発表承諾を得た。また、個人・秘密情報保護と人権に配慮した。

3. 結果と考察

若年性 AD 三名は TDAS 得点が減少し、最も重度の者では得点が 54 点から 38 点と減少し、とくに単語再認の得点減少が大きかった。日常観察では施設職員の装いの変化に気付き、軟便以外の副作用を認めなかった。高齢 AD では、摂取 2 週間以降、中核症状（遂行機能、陳述記憶、遅延再生）に加え、行動・心理症状（もの盗られ妄想、易疲労）に改善を認め、短期記憶や不安は改善しなかったが、MCF 摂取二年経過時の血液生化学検査値に大きく変動を認めなかった。

本研究から、若年性並びに高齢 AD への MCF 摂取の有用性が示唆された。